

生き方を探るⅡ 「キャリア・カウンセリング機能」としての「総合人間科」 —系統別グループによる「キャリア意識」形成の取り組み—

山田 孝・高橋 伸行
杉本 雅子・渡辺 武志
中村 明彦・三小田 博昭

【抄録】 高校三年生の「総合人間科」は、高校生活のまとめとして自分の生き方に向き合う取り組みである。いわゆる進路としての「生き方」と自分の将来を見通す「キャリア意識」の形成としての「総合人間科」である。こうした「キャリア形成」は、教師の助言も必要だが、生徒集団＝系統別グループの中での話し合いやスピーチの中で形作られていく。これは、系統別グループの活動や「総合人間科」の授業自体に「キャリア・カウンセリング」の機能があるのではないかと考えられる。今回は、特に全体スピーチの感想の中にこれがよく現れているように思われる。

【キーワード】 キャリア意識 カウンセリング 系統別グループ スピーチ

1. 高校3年生の取り組み「総合人間科」と「キャリア形成」のモデルとして

「総合人間科」と「キャリア形成」の集大成が高校三年生の取り組みであるといえる。「総合人間科」では、これまで個人研究テーマの設定・検討、フィールドワークの実施、発表とまとめという年間サイクルを繰り返しながら、ひとり一人のキャリア意識が形成されていくのである。

特に3年生になると、自分の生き方と向かい合いながら、系統別グループの仲間と話し合い、自覚的に進路選択できるキャリアデザイン力を高めることが可能になってきている。

具体的には、進路・系統別グループ（6グループ）に所属して、グループの仲間と話し合いながら個人テーマを決定する。そして、個人テーマを決定する過程で、グループ内で「生き方」について話し合いを進め、考えを述べ合うことでグループ内の仲間が「キャリア・カウンセラー」の役割を果たしていると考えられる。キャリア意識の形成については、仲間がお互いに「キャリア・カウンセラー」の役割を担いながら、特に意図しなくても「カウンセリング」機能を果たしているように思われる。

こうした「カウンセリング」機能は、さらに、お互いの生き方について聞く機会としての全体スピーチでの共感的な理解に繋がっていている。「生き方」について真剣に考え、それを各系統別グループ内でスピーチと言う形で発表しあう。スピーチは一人三分以内、約2000字で表現するのである。特に全員に聞かせたいと思うスピーチを各グループから3名選んで、全体でのスピーチを行う。特にこれらの取り組みは、生徒にも好評である。

2. 高校3年生 総合人間科の取り組み

2006年度は、15回の「総合人間科」の授業を実施することができた。「総合人間科」の基本は、生徒自身が考え、行動することであるので個人テーマの設定や、フィールドワークの訪問先を検討するための時間を十分に確保した。それは、何よりもフィールドワークを実施し、実体験をすることが「総合人間科」では大切だからである。

年間の活動を要約すると以下の通りである。

- 第1回 4月14日(金) 〈公開授業〉
オリエンテーション 概要説明
進路希望系統別グループ分けアンケート
- 第2回 4月20日(木) グループ発足：6グループ

グループ

- ①人文科学系 ②社会科学・言語系
③理学・工学系 ④農学・医学・薬学系
⑤教育・心理系
⑥芸術・体育・就職・公務員系

代表者・班名・係決め

フィールドワーク先検討準備①

訪問先検討

- 第3回 5月11日(木) 総合人間科+進路LT
フィールドワーク準備②
訪問先検討：各グループ
- 第4回 5月25日(木) フィールドワーク準備③
依頼状書き：各グループ
- 第5回 6月1日(木) フィールドワーク実施(午後)
- 第6回 6月8日(木) 総合人間科+LT

	訪問のお礼状発送	「背理法」
	フィールドワーク報告会準備	「メディア」
第7回	6月29日(木) 総合人間科+LT	「キッカケ」
	フィールドワーク報告会準備	
第8回	7月6日(木) フィールドワーク報告会	☆算術倶楽部 渡辺グループ
第9回	9月28日(木) スピーチ原稿・集録原稿執筆①	「私ホリエもん」
第10回	10月12日(木) スピーチ原稿・集録原稿執筆②	「人間関係のデザイン」
第11回	10月19日(木) スピーチ原稿・集録原稿執筆③	「今、思うこと」
第12回	10月26日(木) グループ内スピーチ： 自己評価, 相互評価, 教師評価 →2～3名ずつ選抜 全体スピーチへ	☆薬か医だ農 高橋グループ 「責任」 「葉に関わるヒト」 「私の将来に対しての考えの流れ」
第13回	11月2日(木) 学年全体でのスピーチ： 評価はつけずに感想のみ	
第14回	11月16日(木) 研究集録作り	☆Education, Evolution 山田グループ
第15回	12月7日(木) 研究集録原稿完成 スピーチ原稿を骨子にして書き 上げる	「夢のある外国語教育」 「今の夢について」 「E I について」

3. 全体スピーチの取り組み

フィールドワークと並んで特に重要な取り組みが、スピーチである。フィールドワークにより学んだ内容をふまえて、自分の生き方・研究テーマについてのスピーチを行う。自分の「生き方」についての思いを2000字で表現して、系統別グループの中で発表しあうのである。

このスピーチ原稿はまた、研究集録として年度末にまとめられるのである。

10月26日には、各系統別グループの中で個人スピーチが行われ、その中から各グループを代表する三人が選ばれる。後の感想にもあるのだが、全員のスピーチを聴かせたいというのが、実際のところだが時間の制約があり、代表スピーチとなっている。

毎回、全体スピーチを聴いて思うことは、生徒の聴く姿勢のいいことである。体育館に集合して、約2時間近く話を聴くのである。これは、なかなか集中力のいることであるが、この企画に関していえば、大変集中して聴いているということである。みんな真剣に発表者のスピーチを聴いて、率直に感動した内容を感想文に寄せているのである。

全体スピーチは、各グループから三人を選出して、6グループ18人の発表が行われた。

①全体スピーチ発表テーマ

☆死せる詩人たちの会 杉本グループ

「私の暮らした国々」

「フィリピンでの国際交流」

「戦争の恐怖を妄想したい」

☆KDY～お役に立ちます～ 三小田グループ

☆チーム中村すっぱだか 中村グループ

「本当にこれでいいの・・・？」

「進路選択と将来」

「本当にこれでいい」

②全体スピーチの感想

- ・みんなの進路とか、総人への考えを聞いて、自分の視野が広がった。こういう機会はよいと思う。
- ・みんなの発表をきいて、みんなも同じように色々考えているんだなって思ってた。
- ・みんな考えがまとまっていてすごかった。自分の生き方と向かい合っているって感じがした。自分は今まで「考え」があやふやなところとか、直面していることに対して、あいまいに取り組んでいたような部分があったのだと気づかされました。
- ・全員のスピーチが聴きたい。
- ・意見を言い合い、受け止め合い成長しました。全員すごい。今日発表しなかった人も含め、型にはまっているような、はまっていないようなそれぞれの発表のやり方に感動。客観的に見るとやっぱりすごい学校、授業です。
- ・みんな色々考えているんだなと思った。未来についてこんなに本気で考えるのってもうないのかもって思った。
- ・発表を聞いていて、少し自分の夢に自身が持てたような気がする。すごい刺激をうけた。
- ・みんなの考えを聞くのは、とても楽しかったです。また、将来の自分の生活に役立つと思います。
- ・みんなすごすぎで感動した。素敵なたちと知り合いで幸せだと本当に思う。

- ・みんな本当にすごい、色々な生き方と考え方があることに改めて気づかせられました。
- ・みんな素晴らしい。それぞれ考えが深くて本気なのが分かった。
- ・みんなさすがだと思った。色々と考えており私が全く将来について考えていないんだと実感させられた。
- ・総人は、自分が興味を持ったことを調べていくことはもちろんのこと、他の人の発表を聞くことにすごく価値があることを、今回の発表を通してすごく感じた。総人やっていてよかった。終わってはじめて、素晴らしいものだと思えました。
- ・みんなのいろいろなスピーチはとても為になりました。自分の人生の参考にしながら、自分自身もしっかりとした意見を持って自分の人生を突き進んでいきたいです。
- ・みんなの将来のことが知れてよかったです。すごい悩む時期に悩んでいるのは自分だけじゃない。
- ・みんな本当に自分のことを見つめ、やりたい事、夢に向かって努力しているだと分かった。刺激になった。それと、みんなの表現力に感動した。あたしも頑張るぜい。
- ・みんなの話が聞いてよかった。みんなが訴えることはそれぞれ違って、色々考えさせられた。発表を聞いて自分も含め、これだけの個性が集まった名大附に入れてよかったと思う。
- ・みんなの「生きている」意見を聞いて、色々な影響をうけました。これから生きていく上で様々な壁にぶつかった時、みんなのメッセージを考え、進んで行ければいいと思います。
- ・さすが各グループから選ばれた面々だけあってすばらしいスピーチばかりでした。

全体スピーチの感想を見ても、生徒自身によるとともに学びあう姿勢が充分に読み取ることができる。仲間の進路に対する体験が、共感的に理解されている様子がよく伝わってくる。また、「総合人間科」への「再確認」も行われている。高校三年で、やっと「総合人間科」の良さが理解されたのでは、正直困るのだが・・・それでも本校での高校生活の良さが再認識されたのはうれしいことではある。

4. 中学一年の学年への働きかけ 「高校三年生と語る会」の取り組み

全体スピーチでの感動は、次にこの感動を他の学年にも伝えたいというエネルギーとなった。

スピーチ発表者から、「みんないいスピーチだったので、他の学年にも聴かせたい」という要望があがった。過去には、他の学年からの要望で高校三年生が「進路選

択」の話を出前で行ったことはあったが、高校三年生からの要望として実施したことはなかった。今回は、高校三年生の「自分の思いを伝えたい」という願いから、中学一年生の学年団と協力して「高校三年生を囲む会」としての実施となった。

高校三年生の講座担当者は、全体スピーチを行ったメンバーと発表者のメンバー以外からも人選して、進路選択の系統を多岐にわたった確保した。

「高校三年生を囲む会」で、実施した講座は以下の通りである。

キャリアデザインについて語る三年生

2月22日(木)の5～6限目に実施

- 講座① 経済学部 進学予定
- 講座② キャリアデザイン学部 進学予定
- 講座③ 情報学部情報社会学科 進学予定
- 講座④ 理工学部数学科 進学予定
- 講座⑤ 看護学部看護学科 進学予定
- 講座⑥ 芸術学部映画学科 進学予定



自分の考えを授業で表現する三年生

自分の進路選択について、それぞれの三年生が自分の言葉で中学一年生に語りかけ、ある三年生は自分の映像作品を教室に持ち込んで紹介したり、また、看護師とし

て海外で働きたいと考えている生徒は、ワークショップ形式で中学一年生に語りかけていた。

各人がそれぞれ自分の思いをそれぞれの方法で伝えることができて満足そうであった。また、中学一年生からも好評であったようである。

5. 「カウンセリング」機能から見た「総合人間科」

こうした「総合人間科」の取り組みを振り返ってみると、広い意味で言えば、生徒と教師、生徒と生徒による「カウンセリング」作業ではないかと考えることができるのではないと思われる。

「カウンセリング」の定義としては、特定非営利活動法人カウンセリング協会が以下の定義をしている。「カウンセリングとは、心理学的な専門的援助過程である。そして、それは、大部分が言語を通して行われる過程であり、その過程の中で、カウンセリングの専門家であるカウンセラーと、何らかの問題を解決すべく援助を求めているクライアントがダイナミックに相互作用し、カウンセラーのさまざまな援助行動を通して、自分の行動に責任をもつクライアントが自己理解を深め、『よい（積極的・建設的）』意思決定という形で行動が取れるよう援助する。この援助過程を通して、クライアントが自分の成りうる人間へと向かって成長し、成りうる人になること、つまり社会の中でその人なりに最高に機能できる、自発的で独立した人として自分の人生を歩むようになることを究極的目標とする」としている。

私たちの行う「総合人間科」では、心理学的な専門家が「カウンセリング」を行うのではなく、生徒自身が系統別グループの中で話し合い、生き方について考え「カウンセラー」となることである。話し合いをすることが、いわゆる「カウンセリング」であり、「総合人間科」自体がカウンセリング的な機能を果たしているのではないかと考えている。

さらに、系統別グループでの日常的な話し合いや、生き方について語り合うことが、「生き方」や「進路」に関わる問題なので、幅広い意味でキャリア・カウンセリングとしての機能も果たしていると思われる。これは、全体スピーチの感想にもあるが、仲間が「同じように悩んでいる」ことに安心するのであり、同世代の「生き方」についての共感的な理解である。また、中一に対して行った「高校3年生と語る会」でも、中一から同じような感想が出ている。「進路を決めた先輩も悩んで、親とも対立しながら進路を決定した過程を聞いて、自分が悩むこと迷うこと」に対して安心している。

確かに、実際に働いている方の話を聞くことも重要である。また、教師が自分の体験を話すことでも同じ効果があると考えられるが、授業を行っている「完成者」＝

「成功者」＝「挫折していない先輩」としての話では、生き方を模索している生徒たちにとってはまだ物足りないのではないだろうか。

実際に進路を決める過程で悩む同世代の話を聞くこともキャリア意識を形成する上で重要であるのではないだろうか。

6. フィールドワーク訪問先例

研究テーマ	訪問先
経営構造と技術革新	名古屋大学経済学部
障害を持つ子どもたちの教育	千種聾学校 決定
国際化関係学	名古屋大学 野田真里先生
新しい薬学のトレンド	サングリーン
音楽ビジネス	ユニバーサルミュージック
商学とは	名城大学
海外で働く看護師	第二赤十字病院国際救済課
宇宙物理	名大理学部
子どもの発達	県大文学部 児童教育 神田先生
映画と暮らす人	日大芸術学部映画学科
ITモバイル機器の将来	名大 情報科学研究棟
人と動物のつながり	東山動物園動物会館
心理を学ぶ	よつば相談室
製薬会社で研究する人の生き方	三和化学研究所株式会社
建築について	株式会社川三男建築設計事務所
進路について（経営学）	愛知学院大学 経営学部
将来の仕事に向けて	エクラーEclat—美容専門学校
美術と生きる	愛知県立芸術大学
公務員として働く	名大附事務室
プロダクトデザインとは	愛知県立芸術大学
看護師として生きる	名古屋記念病院
スポーツメディア or メディア倫理	立命館大学産業社会学部
子どもと薬	通信病院薬剤部
Unlimited Possibilities	聖霊病院
過去を知ること 未来を作ること	名古屋大学 文学部
クスリとヒト	サングリーン
メディアについて	中京大学入試課
物を売る	J R 高島屋

憲法の精神を探る	名古屋大学 法学部
経営工学について	名工大 都市社会工学
異文化理解コミュニケーション	名古屋大学 教育学部
国際社会・人権のあり方	名古屋大学 法学部
障害児教育	愛知教育大 障害
決めた道を突き進むためには	名古屋大学 情報文化学部
音楽療法を学ぶ	卒業生
外国語を使う仕事	南山大学外国語学部
良い保育士とは	名古屋柳城短期大学
情報教育	愛知教育大学
法を学ぶ	名大法学部 中東先生
日本人と英語	英会話塾 イーオン黒川校
障害児教育について	愛知教育大障害 佐野竹彦先生
企画系企業に潜入	ザグランドティアラ名古屋駅前店
心理学	吉田俊和先生
世界を舞台に活躍する	トライデント外国語専門学校
グランドホステスに聞く	ANAセントレア
仕事の大変さを学ぶ	大坪小学校 木村先生
報道	中京テレビ
分かりやすく教えること	愛知教育大 飯島康之先生
経営とか	名城大学
大学で学ぶ保健体育	愛知教育大学保健体育講座
建築について	市川三千男建設設計事務所
自分の将来について	名大 理学部 福井先生
細胞小器官の起源	名大理学部遺伝子研究所
経済とか	名大経済学部